

10月の県内景況調査結果の概要

1. 主要指標の前年同月比DI値の動き

29年10月のDI値は8指標中、「販売価格」と「取引条件」の2指標が上昇。特に「販売価格」においては2桁の大幅な上昇となった。「資金繰り」は横這い。残り5指標においては下落となった。

2. 県内中小企業の景気の現状

解体工事業や板金工事業等では、大型解体工事などが増加傾向にある事や需要が順調であるとの明るい声が寄せられた。また、鉄鋼業においても、製缶関係の需要が増加している様子が窺える。

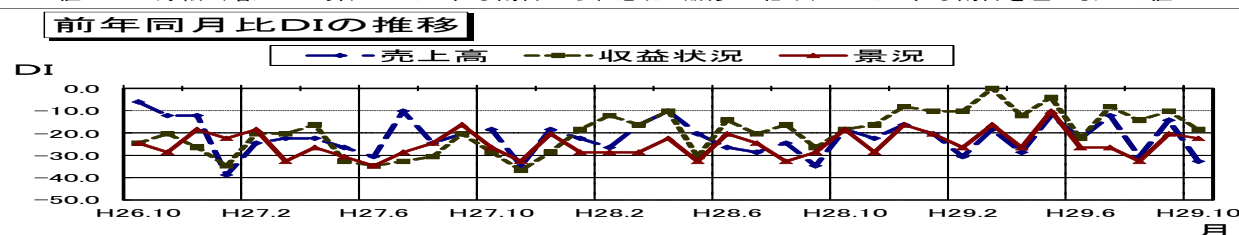
一方、慢性化する労働力不足をはじめ、依然として続く原材料高や軽油価格の上昇に加えて、長雨と台風の影響による売上高の伸び悩みに嘆く声も寄せられた。

日経平均株価が25年10ヶ月ぶりに2万2,937円の高値を記録した事などを背景に、景気は回復を続けていると言われている。しかし、緊迫する国際情勢が国内外経済の下振れリスクを残存させており、先行き不透明な状況に変わりはない。県内中小企業においても、今後の景気動向を注視していく必要がある。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移

	H28 10月	11月	12月	H29 1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	前月比 増減
景況	-18.4	-28.6	-16.3	-20.4	-26.5	-16.3	-26.5	-10.2	-26.5	-26.5	-32.7	-20.4	-22.4	-2.0
売上高	-18.4	-22.4	-16.3	-20.4	-30.6	-18.4	-28.6	-12.2	-22.4	-12.2	-30.6	-14.3	-32.7	-18.4
収益状況	-18.4	-16.3	-8.2	-10.2	-10.2	0.0	-12.2	-4.1	-22.4	-8.2	-14.3	-10.2	-18.4	-8.2
販売価格	6.1	2.0	4.1	6.1	6.1	-4.1	12.2	8.2	-2.0	-6.1	4.1	0.0	10.2	10.2
取引条件	4.1	2.0	4.1	2.0	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	-4.1	-8.2	-6.1	-6.1	-4.1	2.0
資金繰り	-6.1	-8.2	-12.2	-6.1	-6.1	-8.2	-2.0	0.0	-10.2	-6.1	-8.2	-10.2	-10.2	0.0
設備操業度	-5.6	-11.1	-11.1	-27.8	-5.6	0.0	-5.3	0.0	-4.1	-6.1	-8.2	0.0	-6.1	-6.1
雇用人員	-16.3	-12.2	-16.3	-14.3	-14.3	-8.2	-8.2	-10.2	-6.1	-4.1	-12.2	-12.2	-18.4	-6.2

※DI値・・・好転（増加・上昇）したとする割合から、悪化（減少・低下）したとする割合を差し引いた値のこと。



【景況関連の報告】

【製造業】

<食料品>

1. 麺 類・売上高減少。収益状況不変。組合員企業が2企業脱退した。うち1企業は後継者不足により廃業。
2. 味噌 味噌の出荷量、生産量とも前年同月比100%割れ。低調に推移している。主原料の大豆の価格は安定しているが、米の価格は上昇傾向であり収益を圧迫している。

<木材・木製品>

3. 製材 材・木材の需要期を迎え、今月は売上が増加したところもあるが、押し並べて厳しい状況である。天候不順が続いたため、原木調達に苦戦しているところもあるようだ。
4. 木材 材・売上高不変。収益状況不変。長雨の影響で、原木丸太の供給面で不足感が出ている。価格も一部で値を上げているが、全般的には横這いで推移している。しかし手当て買いは旺盛であり、売れ行きは良くなっている。
5. 木材 材・売上高減少。収益状況悪化。時代の流れとともに建築様式が変化している。価格が安い建築材料で家を建てる風潮が強くなり、木材の需要が減っている。

<印刷>

6. 印刷 刷・10月は展示会等のイベントが多いものの、減少する売上高への補填にはなかなか繋がってこない。ニーズ変化への対応、提案力強化への取り組みが求められる。
7. 印刷 刷・10月になり、受注はやっと前年並みになったように思われる。しかし、印刷用紙の値上げが実施され、また運賃も上昇傾向である。受注は確保できて、利益の確保はまだ難しいようである。用紙価格と運賃の上昇分の販売価格への転嫁が今後の課題である。これから年末に向けて益々の需要増加を期待したい。中央会・行政庁への要望事項として、中小企業庁が7月、官公庁向けに官公需法に基づく「平成29年度中小企業者に関する国等の契約の基本方針」を発表した。その中で、「中小印刷会社の知的財産権の保護に十分留意した契約内容とするように努める」という事が明記された。これは、印刷物納品時の知的財産権放棄項目を削除するように求めている。今後、地方自治体においてもその基本方針を守るようにして頂きたい。

<窯業・土石製品>

8. 生 コ ン・10月は昨年同月比約2割減少。特需工事も来月で終了予定であり、一段と出荷量が落ち込むことが懸念される。
9. 生 コ ン・10月の出荷量は、対前年同月比25%減少となった。要因としては台風21号、22号来襲に伴う降雨日が多かった事や前年は大型民間工事を受注していたが、本年はそれに代わるような大型工事が少なかった為である。今後の需要見通しについては、11月から民間での病院施設新設等新規需要を見込んでいるが、出荷数量は前年を下回ると予想される。9月より生コンクリート価格を改定し、標準価格より1平方メートルにつき1,000円の引き上げとしているが、新規発注工事に限られる為、販売益が出てくるのは数ヵ月先になると思われる。

<鉄鋼・金属>

10. 鉄 鋼・業況、売上高、設備操業度とも大きな動きは見られず、収益状況の改善も見受けられない。生産動向は緩やかに持ち直しつつあるとも言われているが、その実感は乏しく、景気動向の一層の好転が期待される場所である。一部の製缶関係では仕事量が多くなってきている模様。
11. ス テ ン レ ス・売上高不変。収益状況不変。国内外ともに目立った大きな変化はない。引き続き大手企業を中心に設備投資が行われているが、中小企業については様子見の状況。

<一般機器>

12. 機 械 金 属・全体として、売上高や収益状況など良好な水準を維持しているものの、大きな変化は見られない。景気、設備投資ともに回復傾向が続いているものの、将来に対する不透明感が依然として強く、景気回復の実感に乏しい。また、熟練技術者の確保難が課題になるなど人手不足感が継続している。

【非製造業】

<卸 売 業>

13. 食 糧 卸・北日本の天候不良により、作況が悪く原価が上昇。販売価格への転嫁が思い通り進まず、収益に影響を及ぼしている。

<小 売 業>

14. 機 械 器 具・天候不順が続いた為、客足が鈍かった。

15. ショッピングセンター・今年は営業店舗が4店舗減少しているが、売上高は全体で対前年比100.4%と健闘している。既存店のみでは101.6%であり、食料品と大手100円ショップの売上が好調である。専門店においては、先月は季節の変わり目という事もあって衣料品店、装身具や文具品など身の回り品の店舗の動きが良かったが、今月は前年を割っている。徳島市内に大型ショッピングモールが開店し半年が経過するが、5月～10月の累計売上は対前年比98.5%であり、影響有りか、無しかの判断は難しい。
16. プロパンガス・組合員に対してガスの保安教育を行っていく。安全管理の徹底に努めて、組合員から顧客にも周知し、業況の好転に繋げていきたい。
17. 電気機器・個展等の開催により、大型テレビへの買換え需要が少しずつ出てきた。エアコンや白物家電においては大きな変化はない。
18. 畳小売業・売上高減少。収益状況悪化。台風21号、22号の影響により現場での作業の遅れが響いたが、大きな被害がなかった事が幸いである。

<商店街>

19. 徳島市・10月も相変わらず客足が鈍く、売上上昇に繋がっていない。天候不順もあり、秋の売上の見通しが立たない状況であり、先行きが不透明である。
20. 阿南市・業況に変化はない。

<サービス業>

21. 土木建築業・売上高不変。収益状況不変。10月も9月に引き続き、改良工事や維持修繕、橋、トンネル補修工事、交差点改良工事等、補正予算がつくまでの準備期間になる。改良工事においては、四国地方整備局発注の工事が予定されており、他の発注と併せて昨年の倍近くで工事金額も大きく上回ると予想される。維持修繕、橋、トンネル補修工事では、橋の修繕工事は多くあるが、工事金額は昨年を下回ると予想。また、工事入札不調が出ている。(工事量が多く施工業者が少ないと、工事金額が合わないことがある。)交差点改良工事、電線共同溝、視距改良工事量及び工事金額は昨年と変わらない。
22. 自動車販売整備業・登録自動車(普通車)の新車登録台数は対前年同月比-13.2%の1,231台、中古車は-7.8%の403台、合計では-11.9%の1,634台であった。軽自動車の新車登録台数は対前年同月比-2.4%の1,009台、中古車+6.0%の370台、合計は-0.3%の1,379台である。登録自動車(普通車)・軽自動車の登録台数合計は対前年同月比-6.9%の3,013台と微減。売上高に関しては、登録自動車(普通車)、軽自動車ともに過去5年間で最低の数字となった。
23. 旅行業・10月は台風が週末に重なった為、売上に影響が出たようだ。また、9月末～10月初めに愛媛国体の開催により、観光バスが不足。旅行客の受入ができなかった。
24. 広告業・昨年と変わりはないが、今後の業況の見通しはやや良い。

<建設業>

25. 建設業・公共工事の発注が遅れており、県下全域で受注量が減少している。雇用については、各社求人を行っているが、入職者の確保は難しい。

26. 解体工事業・売上高増加。収益状況好転。公共解体工事については、10月～12月迄は発注予定が少ない。民間工事については、10月に大型解体工事について3件、その他の工事についても増加傾向であり、いずれも徳島市内の工事となる。徳島市外の工事については、前年度並みであり斑模様。
27. 鉄骨・鉄筋工事業・売上高不変。収益状況不変。設備操業度が低下している工場もあるが、全体的には、前月と変わらず推移している。
28. 板金工事業・新築、リフォーム工事共に順調。忙しく、職人が足りていない。
29. 電気工事業・新設住宅口数は263件であり、対前年比92.2%と微減。

<運輸業>

30. 貨物運送業・一般貨物輸送は、飲料品、生鮮野菜関係は天候不順により大幅に低下。また木材や酒類等、天候に左右されない固定客を持つ業者は横這いで推移している。一方、軽油単価が前月比3円強の値上がりとなり、また不安定な海外情勢の影響で今後も値上がりが予想され、収益減となりそうだ。
31. 貨物運送業・燃料価格が上昇傾向にある。10月は台風など天候の影響が大きく、青果の出荷量が減少した。また慢性的な人手不足は続いており、「ハローワーク、新聞広告、求人誌で募集をしても人が来ない。」という事業者は多い。入社後の定着率も悪く、運転手の知り合いなどに声を掛けて何とか保っているような状況である。